13 環境との共生

現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

〇カーボンニュートラルの推進

・2030（令和12）年度の温室効果ガス2013（平成25）年度比50％減、2050（令和32）年のカーボンニュートラル達成に向けた取組が進み、2023（令和５）年度の市域の温室効果ガス排出量（速報値）は、1,615万ｔ-CO_2で、2013 （平成25）年度比25％減と減少傾向にあります。

・目標の達成に向けて、市民・事業者の皆様の行動変容、脱炭素イノベーション、市役所の率先行動の更なる推進が重要です。

〇GREEN×EXPO 2027を契機とした環共コンセプトの発信

・長年にわたり基地として使用されてきた上瀬谷地区の平和利用の象徴として、GREEN×EXPO 2027（２０２７年国際園芸博覧会）を開催します。

・GREEN×EXPO 2027の開催を契機に、新たなグリーン社会のあり方が広く市民に浸透し、会期終了後の具体的な環境行動につなげていくことが重要です。

〇横浜らしいサーキュラーエコノミー（循環経済）の構築・推進

・限られた資源を最大限有効に活用し経済的な発展にもつなげるサーキュラーエコノミーに関する機運が国内外で高まっています。

・横浜市の特性である「大規模」「多様性」「市民意識」を生かした施策を進め、国内外における循環型社会への転換を加速していくことが重要です。

目指す姿 - ４年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

・様々な脱炭素関連施策の展開により、市民・企業の環境意識の高まりを通じて脱炭素の取組が推進され、ハーフカーボンの達成が確実なものとなっています。

・GREEN×EXPO 2027の取組を通じて、ネイチャーベースドソリューションやサーキュラーエコノミーの考え方が浸透し、市民や事業者の皆様の行動変容につながるなど、新たなグリーン社会の実現に向けた具体的な環境行動が広がっています。

・横浜らしいサーキュラーエコノミー施策が展開された結果、環境への影響を考慮して行動する市民が増えていると共に、市内産業の発展・育成につながっています。また、アジアを代表するグリーンシティとして、世界の環境政策、都市政策を先導しています。

政策指標 -市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標-

以前より環境に配慮した行動をするようになったと思いますか **71.6%**

カーボンニュートラルの推進に向けた取組、循環型社会に向けた取組に関連する主な個別分野別計画等

- 横浜市環境管理計画
- 横浜市地球温暖化対策実行計画
- ヨコハマ　プラ5.3計画

【関連するSDGsの取組】

28 カーボンニュートラル

方向性

地球温暖化が深刻化する中、持続可能な社会を実現していくため、温室効果ガスの2030（令和12）年度50%削減（2013（平成25）年度比）や、その先の2050（令和32）年のカーボンニュートラルに向け、市民や企業の皆様など、様々な主体と連携しながら、「市民の行動変容」「事業者の行動変容」「脱炭素イノベーション」「市役所の率先行動」の４本柱の取組を推進します。

指標

	現状	目標
脱炭素の取組進捗率（環境クレジット制度への参加）※【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	調査中	― %
脱炭素の取組進捗率（市役所）【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	41%（R6時点）	74%
みなとみらい地区の再エネ導入率【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	40%（R6時点）	65%

29 GREEN×EXPO 2027

方向性

「市民の皆様と作り上げる環境との共生」をテーマとしたGREEN×EXPO 2027の開催を通じ、市民の皆様をはじめ、国内外の多くの方々と気候変動や生物多様性の損失等の地球規模の課題を共有し、解決につなげる行動を起こします。更に、新たなグリーン社会の実現に向け、一人ひとりの具体的な環境行動を自然と共にある横浜の都市づくりにつなげていきます。

指標

	現状	目標
環境にやさしい行動に取り組んでいると答えた市民の割合※【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	調査中	― %
シェアリングエコノミーに参加していると答えた市民の割合※【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	調査中	― %
環境活動に取り組んでいる団体数【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	4,068団体	4,100団体

30 循環型社会に向けた取組

方向性

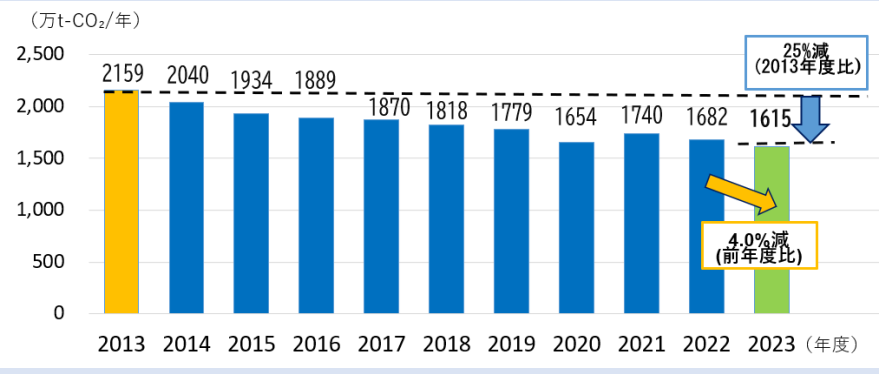
市民の皆様の消費活動や企業の経済活動における意識や行動の変容による、再資源化の促進、積極的なシェアリングサービスの利用、更には、公共建築物における率先的な取組や空家対策、循環型まちづくりを通じて、横浜らしい循環型都市への移行を推進します。また、循環型社会への移行が国際的な潮流となっていく中、これらの取組を広く世界へ発信し、国際プレゼンスの向上につなげていきます。

指標

	現状	目標
循環型サプライチェーンの創出数※【経済局】	―	― 件
サーキュラーエコノミーに関する事業への参加人数※【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】	調査中	― 万人
企業マッチング等による投入資源削減量【資源循環局】	―	8,000t
資源化等による食品廃棄物削減量【みどり環境局】	―	870t
公共建築物のサーキュラー設計数【建築局】	―	90件

【関連データ等】

●温室効果ガス排出量



【出典】脱炭素・GREEN×EXPO推進局

●GREEN×EXPO 2027　会場イメージ

【出典】GREEN×EXPO協会